



第1508回例会 会報

幹事 若生恒吉
 会長 市川輝雄
 クラブ奉仕 佐藤 昇

出席報告:会員 89名 出席 63名

ロータリーに活力を
 あなたの活力を
 PUT LIFE INTO ROTARY-
 YOUR LIFE

1989 (平成1.5.23) 天候 晴

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔
 国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓水節雄

出席率70.27% 前回出席率77.33%
 修正出席 77名 確定出席率88.00%

会長報告

市川輝雄君

。風薫る季節となりました。気温が上がり湿度が増すと、花や新緑の香りが空気中ににじみ出ていわゆる薫風となります。

岩はしる垂水の上のさわらじの

萌え出づる春になりにけるかも

(志貴皇子)

万葉集の中でもいかにも春の息吹を感じさせる季節歌であります。

当クラブ雑学博士板垣俊次君の説によれば“流れ落ちる滝水の上に萌えるさわらび”というのは意味深長なものがかくされているのだそうですが間もなく山菜取りのシーズンとなります。

。25日は庄内の奇祭天神祭であります。菅原道真公が時の権力者の怒りにふれ遠国に流される時、その徳を慕う人々が面体をかくして見送ったという故事にのっとっての風流な行事であります。今の

若い人に、その「化物假装」のなり手が少ないことが祭りの悩みの種となっていますが、歴史と伝統を重んずる鶴岡から、そうした行事を除いたら何が残るか考えるべき問題だと存じます。

。本日臨時理事会を開き、次の事項を協議致しました。

①創立30周年行事の会計報告を行ない、その承認を求め、年次報告書及び記念誌にその明細を掲載します。

②新会員となります喜田川博也君、高橋登君の委員会所属はSAAと致します。

③東北電力三浦勉くんから三ヶ月間の賜暇願が出されそれを了承しました。

斎藤さゆりさんから二伸

鶴岡ロータリークラブの皆様へ

最近のサリーナは雨が多く、過ごしやすい日が

ロータリアン日記 ○月○日

多局化時代

日本の民放営業はアメリカを範としてスタートし30年を経過、目下内需好調を背景に活況を呈している。現在の県内民放を取り巻く環境に問題はないのだろうか。県内も4月1日からFM山形が開局、10月1日にTUYテレビュー山形も開局する。いよいよ県内民放営業も媒体競争時代に突入する。現在、山形県経済は日本全体の1パーセント経済といわれる。しかし広告界における山形県の現況は0.6パーセントと広告代理店の電通ではみている。現在活況を呈している地域は、東・阪・名・九・札・仙の6地域、キー局、準キー局の地域のみであって、我々純ローカル地域は多局化時代に相まって厳しい営業

を強いられているのが現状である。

幸いYTSは連続10期の三冠王を達成した高視聴率によりベストチャンネルとして定着しつつある。それにつけても、庄内のニーズであった有効なイベントを企画しつつ効果的営業をしていかなければならないと考えている。友達の手を借り、数人よりさらに多くの人と語り合いながら、不透明な時代を、人との触れ合いの中で、経済面のみならず広範な発想を得ようと模索しながら歩みたい。これからますます、小生も庄内の逆風に向かって歩かねばならない。時として風に吹きまわられて辞易しながらも後戻りはしない。ただし前途は遠慮であろう。ご支援をお願いしたい。

矢口良行

続いております。普段は秋だというのにとても暑い所なのです。日本の気候はどうでしょうか。桜の季節も終わったのでしょうか。

秋がオーストラリアに到着し、2ヶ月が過ぎようとしています。本当に1日1日が早く感じます。この2ヶ月には色々なことがありました。3週間のサファリバスツアーは、忘れられない一生の思い出となりました。エアーズロックはとても大きく一枚岩だとは思えない程でした。頂上まで登りましたが、始めはとても急でその上とても暑く、途中でもどろうとも思いましたが、なんとか頂上までたどりつくことが出来たのです。頂上に着いた時は本当に感激しました。景色がとてもきれいでずっと遠くまでも見えるのです。サンセットのエアーズロックもとても美しかったです。それから日本人の観光客もたくさんいました。キャンベラはとても美しい街で、緑が多く、きれいに整備されていました。シドニーでのオペラハウスとブリッジの夜景は今までに見たことのない程に美しいものでした。でも、このオーストラリアにはきれいなものばかりあるわけではありません。エアーズロックなどの暑い所ではハエが多く、はらっても集まってくるのです。これには本当に悩まされました。それに私の大嫌いな蛾がたくさんいて、シャワーがあびれない日もあった程です。

食事の方は栄養が良すぎるせいか、今では7kgも太ってしまいました。朝はトースト、お昼はフルーツだけの時もあればクッキーだけの時もあります。でも夜は少ないと思う日がない程たくさん出ます。やはり主に肉が多く羊の肉もしょっちゅうです。でもそれでなぜ7kgも太ってしまったのか私には不思議でなりません。間食が多いせいでしょうか・・・

先日は、サリーナ高校の生物の授業でグレートバリアリーフのクレドリンリーフという所まで行

きました。私の町のサリーナは、海が近くにあるのですが、1度しか行ったことがなかったのでもうれしかったです。そしてそこでスノークリン（ゴーグルとスターグホーンコロンをつけて泳ぐものです）をしました。さんごがとてもきれいで、魚もブルーやレッドのカラフルな魚が多くいて、水族館で泳いでいるみたいでした。しかし、さすが往復6時間の船乗りにはたえられず、船酔いしてしまいました。それでもとても楽しい体験でした。

サリーナステイトハイスクールには4月25日より通っていますが、今だに授業がわからない状態なのです。ホストシスターが同じクラスのため、友達がたくさん出来たのですが、思うように話すことが出来ずにいます。

ホストファミリーはとても良い人ばかりで、お父さんは仕事で家にいないことが多いのですがお母さんは、一生懸命に私に英語を話させようとしてくれます。

そろそろホームシックにもなってきましたが、楽しい毎日を送っています。

2ヶ月たっても成長していない自分にあせりを感じますが、これからの1日1日を大切に少しずつでも成長していくように頑張りたいと思います。

幹事報告

若生恒吉君

○会報到着

酒田中央R.C

○ロータリー日本支局より

・ポリオプラスニュース

・RI情報抄録

・1990年国際ロータリー理事選挙の指名ゾーの通知

。例会変更

- ・酒田中央R.C 5月26日の例会は都合により26日午後7時貞鐘

場 所 湯野浜 都屋ホテル

登録料 10,000円

- ・酒田R.C 5月31日の例会はインターアクトとの合同例会（山王森の清掃）の為31日午前5時30分日枝神社前集合雨天決行

登録料 1,500円

- ・酒田東R.C 5月25日の例会はクラブ協議

会の為25日午後6時貞鐘

場 所 酒田農協会館

登録料 3,000円

- 。クラブ協議会開催6月13日夕方より新旧合同で行います。新旧各理事委員長は6月6日まで活動報告書、計画書を事務局まで提出して下さい。クラブ協議会の資料にしますので必ず提出して下さい。
- 。30周年記念行事に対する会員からの立替及び請求は事務局より支払を受けて下さい。

ロータリー財団寄付 円8,382

ゲストスピーチ

＝ 地球の緑を考える ＝

鶴岡営林署署長 岸 純夫氏

1. 始めに

最近新聞紙上、あるいはテレビなどで熱帯林保護運動の様相あるいは、竹下総理のASEAN訪問に際し、熱帯林保護への国際協力に関する声明など熱帯林の減少が話題となることが多いと思われる方もいらっしゃるのではないかと思います。

本日は、「地球の緑を考える」と題し、世界の森林が抱えるいろいろな問題、特に最近問題となっているこの熱帯林の問題を中心に話をしたいと考えています。

森林の歴史というものをその林業的利用というものを除き、おおまかに申しますと農業生産の拡大、鉱工業の拡大、あるいはこれに伴う都市化の拡大等経済の発展とともに生ずる土地利用の需要を満たすために存在してきた歴史としてみることも可能です。例えば、イギリスなどは、かつて森林を多く保有していましたが、現在は、その多くが牧草地、農地などに転用されています。日本のことを考えてみても、この庄内平野の田園もかつて

は森林でおおわれていたものが、水田に変わっていったものでしょう。

熱帯林の減少という問題を考える時、我々は、まず、このような歴史のプロセスが熱帯林にも及んできたと考えることができるのではないかと思います。まず本題に入る前に世界の森林資源の現状について概要をお話したいと思います。

2. 世界の森林資源の現状

- (1) まず、世界の森林資源の現状をみますと、世界の森林面積は、29億5千万、日本の国土の倍です。蓄積は3千3百億です。日本の木材消費量は、毎年約1億前後ですので、その約3千倍の木材が地球上に存在しているわけです。因みに世界を先進地域と開発途上地域に分けますと森林はそれぞれ50%づつに分かれていることとなります。
- (2) 次に世界の木材消費をみますと、86年で32億5千万です。単純にみますと、森林蓄積は3千3百億ですので毎年その1%づつを消費していることとなりますが、森林は生物ですので年々成長

していることから、100年間ですべて伐りつくしてしまうということではありません。(日本の場合も同じ、蓄積9億、伐採量0.32億)先進国、開発途上国別でみると先進国で45%(うち用材82%)開発途上国で55%(うち79%が薪炭材)が消費され、用材と薪材の割合はほぼ半々というところとなっています。

3. 森林の減少と荒廃

(1) 統計的にみると世界の森林面積の減少は、もっぱら開発途上地域でおこっており、特に熱帯地方でおこっています。具体的には、71年の森林面積を100とすると、86年の森林面積は、世界全体で97.1ですが、先進地域では100.2と上昇しているのに対し開発途上地域では94.6、熱帯地域では93.7と落ちこんでいます。林業白書によれば、81年～85年間に熱帯地域の天然材は毎年1,100万減少しています。

(2) このように熱帯地域を中心に森林の減少が著しい実態にあるわけですが、この熱帯林がどうしてこのように減少荒廃していくのかについては、いろいろな要因が考えられます。その1つは、非商業的な森林の利用、いかえれば、開発途上国の自足時給経済の動きに関連した森林の減少、変質です。これの代表的なもので、現在のところ最も森林減少にInpactを与えていると考えられているものに、「焼畑移動耕作」があります。FAOとUNEPの調査によれば、この焼畑による森林減少は、熱帯林の森林減少全体の約50%を占めており、地域別では、熱帯アジアではその49%、熱帯アフリカではその70%、また熱帯アメリカではその35%がこれによる森林減少であると分析しています。そもそも焼畑耕作は、開発途上国では、伝統的に行われてきたもので休閑期間、耕作手法さえ適切に行いさえすれば、地力の回復が可能なわけで、その範囲内では森林の減少に結

びつかないわけですが人口の増加、あるいは商品経済の発展などの社会経済的な影響を受け、新しい耕地を求めて人々が森林に侵入していくプロセスの発生、あるいは休閑期間の短縮化をすることとなり、その結果森林の荒廃の面的な広がりとともに、森林の再生能力の劣化 → 材地の裸地化につながることが多いとされています。この焼畑移動耕作は、地域に関わりなくおこっていますが、次に特に乾燥地、半乾燥地域で問題となるのは家畜の放牧、焼材の採取による森林の減少です。これらの地域では、遊牧方式の土地利用が主流ですが、人口増や井戸の普及などにより家畜頭数が急増し、集落や水たまりを中心として、砂漠状の土地が拡大しているとされています。焼材の採取については、開発途上国では木材消費の79%が薪炭材であると先ほどお話したわけですが、人口の増大とともにその需要が急激に増加している実態にあります。この薪炭材は、単に森林地帯に居住している人々のみでなく都市地域に居住している者へも最も安価な燃料として供給されるわけですが、人口の増大は、燃料需要の増大 → 材地の裸地化さらには砂漠化の促進に直接的に影響を与えているということが出来ます。因みにFAOは、1990～2000年の予測をし、今後薪炭材不足が危機的に欠乏する地域としてサハラ、東アフリカ、中央アジアの高地地域、アンデス高原などを挙げ、影響を受ける住民を農山村地域1億人、都市地域1億5千万人と推定しています。次に森林の減少をもたらすもう一つの大きなカテゴリーとして、森林の商業的利用があります。先日、NHKTVスペシャルでアマゾンの森林破壊について放映していましたが、その中でとりあげられていたのは、アマゾン地域に基幹的な道路を世銀などの援助により開設するプロジェクトの進展に伴い、森林を伐開して大規模な農地や牧草地を造成する商業資

本が入ってくる。これに対し従事より森林を伝統的に利用していた地域住民が反対するという図式です。一般的に言えば牧草地は、土地生産力の低下が早く、造数年後には放棄されてしまうことが多く、このような森林利用は、今後とも大規模な森林の減少につながりかねないことは事実のようです。もう一つの商業的利用は、森林の商業的伐採です。新聞紙上で最も注目され、また例えば連休中アセアンを訪問した竹下首相の熱帯林保護に関する発言もこれを意識したものとなっています。熱帯木材の最大の輸入国である我が国としては、批判を最も受けやすい立場にあるわけです。

しかしながらその実体は、我々日本人が森林伐採を連想するのとは大分異なっているようです。日本の最大の熱帯木材輸入先であるアセアン地域をしてみると、森林のなかで実際に伐採搬出されるのは、ラワンなどフタバガキ類を中心に森林蓄積の約10%、本数にして数本というところですが、したがってこれが直接森林の減少に結びつくということではなく、森林へのアクセスが伐採により確保されるとともに、焼畑耕作が侵入、これが森林の減少に結びつくというプロセスをたどるようです。なお、商業伐採については、大抵の国で森林計画制度下、伐採量の制限がなされていますが、ここで問題となるのは、これに従わない森林の伐採です。例えばタイにおいて83年～84年に市場で処分されたチーク材の66%はこのいわゆる不法伐採によるものとする調査があります。

4. 森林の回復に向けての努力

(1) このように熱帯林の急激な減少は、御承知のように地球的規模での環境変化など先進諸国を含めた地球全体の問題となっているほか、当事国においては経済社会の維持、発展を著しく妨げることとなります。このため国際機関では、各国の搬出金を基にその回復のためさまざまな試みが行わ

れているわけですが、ここでは、これらの動きを詳しくお話する時間はありませんので省略致します。

また、我が国をはじめとする各先進国でも二国間ベースで途上国に対し、森林回復のためのいろいろな援助を実施しています。

このうち我が国が現在森林、林業部門で行っている二国間協力は、専門家の派遣、研修員の受入れ、機材供与などを有機的組み合わせたプロジェクト方式の技術協力を主体にしておき、資料のとおりに、広範囲にわたっております。これらのプロジェクトはそれぞれ目的を有し、各国からの要請に基づいて行われているわけですが、ここでこれらの協力を実施するにあたり、特に留意している点を2点ほどあげて話を締めくくりたいと思います。

その第1点は、協力は、供与国の独善で行われてはならないということです。例えば、私ここに赴任する前にインドネシアの治山のプロジェクト関係の仕事で2週間ほど出張した経験がありますが、相手国の役人は、我々のもっていった我が国の治山技術のパンフレットの中の治山ダムの写真を見て「これは良いけどいくらかかるのか」と問うわけです。「まあ一基2,000万円くらいかな」と答えると相手は「こんなものはいらない、我々の必要としているのは、もっと安くて現地で調達できる材料によりできる治山ダムだ」と言っておりました。つまり、供与国が無限に資金を与えることはできないわけで、現地の人々が自前で使える技術を開発する必要性を感じた次第です。

もう一点は、一点目とも通ずることですが、現地の人にほんとうに役に立つ協力が必要ということです。今林業分野の協力では、Social Forestry、Agriforestryという言葉があります。これらはこの点を考慮に入

れた協力方法を示唆しているもので、例えば薪炭材の不足している国で用材の苗ばかりを植えてもどうにもならないわけで、薪炭材の育成を図りながら森林を回復していこうとする方法論が必要とされるわけです。日本の協力ではケニアでこのような試みが行われています。また焼畑耕作が森林の減少の最大要因となっているところでは、例えばアツシカブを育てるように農業と林業の複合経営が必要とされるわけでこれを Agrufire と呼んでいます。第一点を含めこれらの方法論は、いざ実施するとなると、その地域の社会、経済というものを徹底的に勉強する必要があり、ただちに成果があらがないということはいえるかもしれません。しかしながら、林業という土着的なものを相手にする限りこれはさけられないものではないかと思えます。そしてこのような地道な積み重ねが世界の森林の回復につながるものと考えております。

スマイル

- 阿部 与十郎 君 事業の役員会総会のため出張しており、休ませていただきましたので
- 鈴木 茂男 君 日曜に石川さんが会長をしている「北濤会」の男鹿半島釣ツアーに参加し大変お世話になりましたので
- 松田 士郎 君 ローターリー世界大会に出席した15名、事故もなく無事、昨日帰国いたしましたので
- 吉野 勲 君 出張その他で2週間休みました。今日30周年の感謝状を頂きました。有難うございました。

石川 寿男 君

それから、女の子の孫が生まれましたのでスマイル致します。鈴木茂男君からお話でしたが、荘内銀行北支店の釣の会「北濤会」の有志17名で、男鹿半島入道崎、水島であいなめつりを行いました。風のため12時で止めましたがおきたなご、いそしんじょうなど短い時間でクーラー一杯にした人が大勢いらっしました。鈴木さんスマイル有難うございました。

新穂 光一郎 君

ソウルで開催されたInternational Y.E.O Conference の Sahni委員長と会いお話しすることができましたので

若生 恒吉 君

30周年事業予算で赤字を出し責任を感じますのでスマイル致します。

市川 輝雄 君

私も同じでございます。

ビジター

古川 暘一 君 (鶴岡西R.C)

佐藤 修弥 君 (鶴岡西R.C)



カット 石井 敬三 君